

活動報告

第 18 回兵庫県リハビリテーションケア研究大会報告

米田 進一

去る、1月21日（土）神戸市勤労会館7F大ホールにて、「第18回兵庫県リハビリテーションケア大会」が開催されました。午前の部は「講演テーマ：その人らしい暮らしを実現する～障がい者差別解消法と専門職に求められるもの～」と題し、NHK 福祉番組に出演されている玉木幸則氏による講演がありました。講演内容は玉木氏が実際に経験した事や合理的配慮に欠けている事、日常生活で感じた事を踏まえ、当たり前障がい者が差別なく暮らしていける世の中にしていきたくと訴えられていました。

午後の部は「65歳問題について考える」と題し、まず堂野前氏が相談員の立場から計画支援制度の財政問題を中心に話され、続いて当事者である三戸呂氏が、介護保険に切り替わる際の障害者総合支援法との併用の難しさについて事例報告され、その後に三戸呂氏をモデルとして彼に携わった人達からみた65歳問題について順番に報告しディスカッションをしました。この問題はいずれ私達も直面することであり、準備をするまでに情報収集する事が重要と感じました。ディスカッションが終わり、指定演題で「兵庫県自立生活支援センター」の藤原勝也氏による活動報告があり、人工呼吸器を付けながらも支援環境が整っていれば社会参加する事ができ、自立した生活が送れると訴えておられました。続いて我々からは「兵庫頸髄損傷連絡会」の紹介や活動報告について報告しました。3番目に「脳卒中者友の会 あげぼの会」の坂口氏による活動報告、最後に「兵庫県手をつなぐ育成会」の小原氏による活動報告と息子さんの育児経験談を熱く語られていました。4組全ての報告が終わってから質疑応答の時間で、宍粟郡から来られていた来場者から、地域による環境の差による困難さがより大きく影響していることに、私達もこれから解決していく事にも十分に情報を得られたと話されました。身近にある問題と認識する上で共に学んだ良い研究大会となったと思います。

